



教育の賞味期限

センター員 山内清郎

目次：

- 教育の賞味期限 1
- 採用選考試験合格のカギ 1
- 自ら切り拓く 2
明日やろう、じゃなくて、今日やろう！身につけたいのは積極的性と行動力。
- 実践力のある教師を目指して 2
ボランティア活動を通して、学べることはすべて吸収し、自信につなげたい。
- 子ども一人一人を大切にするには 3
子ども一人一人を大切にするためにはどうすればよいかわかってきた。
- 掴む一岡本ワールドー 3
「【覚悟】が運命を変える」先輩である岡本先生はこの会を通して、それを伝えてくれた。
- 語学研修で得たもの② 4
逃げないで取り組む姿勢が身についた。
- 読書案内 4
皆さんは、今教師に必要とされていることは何だと思えますか？

ある学生が小学校の学習支援のボランティアで経験したことについて、次のように語ってくれた。

漢字の書き取りになかなか取り組めない男の子がいる。席に着くまでが一苦労。よく言えば、彼の興味はたくさんを飛び回っていて、周囲への関心が豊か。漢字練習帳は彼のたくさんの興味の対象の一つでしかない。しかし悪く言えば落ち着きがない。学生は悩む。自分に期待されている役割は当然、一対一の環境で遅れがちな漢字練習を先に促すことだ。でもここで無理強いして、今せっかく出来ている、時間がかかっても気の向いた時にはノート1行分の漢字を書くことまで台無しにしては嫌だ。

ボランティアで貴重な経験をしていると思う。しかしそれは、現場でいわゆる「困った子」「難しい子」に対する実地訓練をしている理由からではない。

というのは同時に次のようにも語ってくれたからだ。

一人で40分も50分も黙々と課題に取り組む女の子がいる。最初は「同じ歳でもこれだけ発達具合が違うのか」とか「こんなこと思っはいけないかなと思ながらも、例の子も、これくらいの集中力をもってくれればいいのに」とうらやましく感じたりした。でも、家庭の様子が分かってくるにつれて、もしかすると、この女の子は本当は例の男の子のように飛び回ったりしたいけど、それを抑えて「ひとに迷惑をかけないのが一番大事」と強くプレッシャーを感じているのかもしれない。たくさんの兄弟の真ん中の子。お母さんに迷惑をかけない

という生活スタイルが幼くしてその身に沁み着いているように感じられる。

貴重な経験をしていると思う。

ここから「教育の賞味期限」ということを考えることもできるだろう。先生としてある子どもに対して責任をもって接するのは小学校で長くても6年。担任を受け持つことに限れば1年か2年。その間、静かに勉強してくれたらどんなに嬉しいことか。しかし、そうした期間を終えても彼らの人生は続く。その後、彼らがどのように成長していくのかは誰も予言できない。もしかすると「あの時、本当は注意したかったはずなのに、口出しせずに見守ってくれたのがとても嬉しかった」と成人した男の子が言うかもしれない。あるいは「自分を押し殺したように無理に頑張らなくて大丈夫と、なぜ一声かけてくれなかったの」と後になって女の子は言うかもしれない。教育には少なくとも、目の前で起こっていること、そして例えば数年か十数年の単位で、かなり先に思いを馳せる2つの見通しがあるだろう。教育の賞味期限は、課題を出す、答えさせる、丸つけをする、で終わりではない。その長い未来に思いを馳せたからといって、確かに、目の前の子の漢字練習がはかどるわけではないだろう。でも、自分の思いや姿勢、理解は大きく変化するかもしれない。

その意味で、この学生はボランティアで、とても貴重な経験をしていると思うのだ。



採用選考試験合格のカギ

教職支援センター 教職アドバイザー 細谷 僚一

「先生になりたいあなたへ」（藤岡達也著 協同出版）という本が出ました。副題は「教員採用試験の突破からライフワークとしての教職を考える」です。教職アドバイザーにとっても必読の書と考え、早速読みました。最近の採用状況をよく踏まえられています。一読を薦めます。

その中に「大学の就職支援の利用頻度が高い学生ほど採用試験の合格率は高い」と

いう箇所がありました。思わず線を引いてしまいました。実感です。備えもなしにチャレンジしてもよい結果はなかなか得られないものです。周到的な準備、計画的な取り組み、適切な方向づけ（アドバイス）のもと、目標を確実に達成してもらいたいと思います。

教職支援センター活用は合格のカギだと考えてください。



進んで行動

- ・学生ボランティア
- ・総合育成支援員
- ・大谷大学での学習会
- ・他大学の学生との交流など

自ら切り拓く力「明日やろう、じゃなくて、今日やろう！」

教育・心理学科 第3学年 水谷 咲耶（みずたに さくや）

私は、1年生の9月から2年間京都市立室町小学校で学生ボランティアを継続し、今年度から京都市第四錦林小学校で総合育成支援員として教育現場に入らせて頂いています。

あと9ヵ月で教員採用試験を受験しますが、非常に不安を感じて焦っています。私は採用試験に対する危機感がなすぎたことに原因があると考えました。

3年生になり、先輩方の採用状況を耳にする機会が増え、毎日何か少しだけでも勉強をしないと後悔し、焦燥感に駆られていました。まずは勉強の癖をつけるために「明日やろう、じゃなくて、今日やろう」をテーマに掲げ、早速私主催の勉強会を企画し、教育課題の意見交流や問題の教え合いで学びを深めています。

学生ボランティアをする中で、他大学の方との交流も大切にしてきました。他大学では教職支援センターから与えられる情報量が少ないため、教育に関する情報を得ようとする行動力が非常に高いです。大谷大学では常に

数多くの情報が飛び交っていて、求めようとしなくても与えてもらえる状態にあります。しかし、他大学では自分で各教育委員会に問い合わせ、小学校に直接電話をかけてボランティア先を探し、ボランティア仲間である他大学の学生とコミュニティを築き情報交流をする、と少しでも情報を得ようと意欲的に自ら働きかけています。求めて働きかけないと何も進まない、からこそその積極的な行動力を身につけるべきだと気付かされました。

情報の中から今の自分に有益なものを選び取って進んで行動しないと情報が無駄になり、自分の教師力を向上させる機会を潰しています。本当に教師になりたいなら、よりよい教師になろうと思うなら、採用試験でライバルとなる仲間に負けない行動を積極的にしようとする気持ちが必要だと考えます。自ら変わろうとしないと変わりません。今から変わらしましょう。一緒に変わって、採用試験に合格しましょう。

実践力のある教師を目指して

— 小学校教員になるまでの道のり —

教育・心理学科 第3学年 橋長 みさき（はしなが みさき）

私は、光華小学校に学生ボランティアとして行き始めて3年目を迎えています。今までボランティアでの体験の中で数々のことを学ぶことができました。

はじめは、子どもたちと仲良くなれるか、しっかりと話せるか、などの不安と緊張でいっぱいだったのを覚えています。子どもたちだけでなく、学校の先生方との関わり方や接し方もわからず、自分の居場所が見つけれず戸惑ったこともありました。

そのため、私がボランティア活動の中で心掛けていることが二つあります。一つ目は、積極的に子どもたちや先生方に元気よく挨拶をしたり、話しかけたりすることです。これによって子どもたちや先生方との距離が少しずつ縮まりました。それからは、毎回のボランティアがすごく楽しく、もっとたくさんのことを学びたいという気持ちが強くなりました。

二つ目は、先生方の指導（子どもたちへの働きかけ）や子どもたちへの対応をよく見ることです。例えば、授業の進め方や、板書をするときの黒板の使い方や、立ち位置、子ども同士のけんかの対応などがあります。

こういったことは、学校現場でしか見て学べないことであると思います。実際に子どもたちと先生との関わりを見る中で、自分にこのような立場が務まるのかと少し不安になることもありますが、学べることはすべて吸収して、自信につなげていけるようにしていきたいです。大学卒業後、自分が学校現場に立つことができるように、ボランティア活動を通してたくさんの方の学び、実践力のある教師を目指していきたいと思っています。



ボランティア活動の心掛け

- ① 積極的に話しかけ人間関係を築く
- ② 先生方の子どもたちへの働きかけから学ぶ

先輩からのアドバイス

卒業生実践報告会 11月30日

子ども一人一人を大切にするためには

教育・心理学科 第1学年 岡村名美子（おかむら なみこ）

私は、「子ども一人一人を徹底的に大切に子どもの心に寄り添える先生になりたい」と思っています。しかし、そのためにはどうすればよいか分かっていませんでした。今回の報告会で平岡先生のお話をお聞きして、初めて具体的に考えることができました。

平岡先生は、毎朝子どもたちに伝えたいメッセージを黒板に書いたり、一人一人にあった手づくりの漢字テストなどを行ったりされていました。学校では勉強を教えなければなりません。しかし、すべての子どもが勉強好きで得意だということはありません。勉強が嫌いで苦手な子ども



のような子どもたちにも分かりやすく、楽しい授業をするように教材の工夫をされていました。また、子どもたちはそれぞれ違った環境の中で育っています。だから、指導も一人一人に

あったものにならなければならない。また子どもたちにとって居心地のよい学級にすることが大切だと言っておられました。

私はボランティアとして実際に小学校に行ったり、児童館に行ったりして子どもと関わる中で、そのことを強く感じました。家庭の事情から、学校でしか自分の思いを発散できない子、すぐにイライラしたり集中できない子など、子どものケースは様々です。でもその子とじっくり向き合うことで心を開いてくれ、新しい一面を見ることが出来ました。子どもたちがのびのびと学校生活ができ笑顔のあふれる学級にするには、教師が子どもたちと真剣に関わっていくことが大切だと思います。

私は平岡先生のように子どもたちが安心して、楽しい学校生活が送れるように、そして夢や希望を持てるような指導や支援ができるようになりたいと願っています。そのためには、今自分にしかできない経験をたくさん積み、もっと自分磨きをしなければいけないと思いました。



平岡 佳奈 教諭
◆京都市立久世西小学校◆
(1998年度・社会学科卒)

掴む — 岡本ワールド —

哲学科 第1学年 具志堅 倫護（ぐしけん こうご）

他人の心を掴むのは難しい。しかし、教師はすばやく生徒の心を掴むことが求められる。そして優れた教師は絶妙な言葉遣い・表情・しぐさ・タイミングによって生徒を動かすことができる。

「足を崩してリラックスして話を聞いて下さい」

岡本先生は開口一番にこう言われた。僕はかなり驚いてしまった。会場に居る僕を含む学生は皆、着慣れないスーツに身を包み座っている。慣れないことをすると疲れてしまう。肩に力が入る。誰でも経験した事だろう。そんな中で一言、確実に僕は岡本先生に心を動かされ「岡本ワールド」に引き込まれてしまった。

「では、普通は話を聞き終わってからする質問コーナーを先にします」「質問がない人は挙手!!」・・・「初めは1番ではなく、2番で良い。次に1番になるために良い

部分を盗むために」

このような「岡本ワールド」の源とはなんだろう？

それは岡本先生の話してくれた【覚悟】という言葉に隠れていた。「先生になりたい」と「先生になる」の2つの言葉がある。「なる」と口に出してしまったら、その言葉に対して自身が真摯に行動しなければなりません。つまり、岡本先生自身が自分に対して真摯であるから「岡本ワールド」を展開させられるのではないのでしょうか。

そのような他の人に負けない何かを僕も見つけて、教師になります。

「【覚悟】が運命を変える」先輩である岡本先生はこの会を通して、それを伝えてくれたと思います。



岡本 寛寿 教諭
◆大津市立打出中学校◆
(2009年度・文学科卒)

■ 語学研修で得たもの ②

国際文化学科 第3学年 松尾 怜香（まつお れいか）



昨年の8月28日から9月21日まで、イギリスのカンタベリーで短期語学研修に参加しました。私は以前から外国や英語に興味があり、語学力向上のため、言葉があまり通じない人々と触れあう中で、新しい自分に会いたいという気持ちから海外研修を決めました。

私は約1ヶ月という短い期間だったので、悔いのない生活にしたいと思い、日常生活を充実させることが目標でした。出発前の私は、日常会話ぐらいなら出来ると思っていました。しかし留学したことで気づけた最初の壁は、自分の英語力の低さでした。ジェネラルイングリッシュの難しさ、そして他国の人たちの訛りもあったと思いますが、全くと言って



講師を囲んで談笑する松尾さん。右から3人目。

いいほど聞き取ることが出来ませんでした。そして、会話の早さについていけるほどの語学力がないことに気づいたときのショックは言い表すことの出来ないものでした。

しかし、だらだら生活をしていたら日本と変わらない！と思い毎日英語で日記を書いたり、会話の中でよく出てきた単語をすぐ調べて次の日から使ってみたりしました。生活をしていくうちに耳が慣れてもきてしだいに相手の言葉が理解しやすくなりました。

そして、語学研修が終わったあと一人でロンドンに行き、観光をしました。一人なので恐ろしかった？とよく聞かれますが、私は一人で行くことで自らの照れを気にせずにいろいろな国の人と話すことが出来てすごく勉強になりました。

今私は、英語がぺらぺらでも、長時間他国の人と会話が出来るとの力はありません。研修前と何が変わったと言われれば、少し英語が聞き取りやすくなったぐらいです。ただ、はっきりと言える事は、逃げないで取り組む積極的な姿勢が身に付きました。私は目標を掲げていたので達成しようと必死でした。私はこの気持ちを忘れないようにしたいと考えています。そして、研修で出来た他国の友達や先生とface bookを通じて今も関わりがあります。出会いを大切にしようと思えたのも研修で得たことの一つです。今後も研修で得た人間関係を大切にしながら、語学力や国際的感覚を高めていこうと思っています。

■ 読書案内

「教師としていちばん大切なこと」レイフ・エスキス著 PHP研究所
歴史学科 第1学年 山田光輝（やまだ こうき）



皆さんは、今教師に必要とされていることは何だと思えますか？

多くの方は、子どもに好かれる・一人一人を大切にすること・子どもを授業に集中させる等を思いつかれると思います。しかし、現実には厳しいものがあると思うのです。

この本の主人公はアメリカ・カルフォルニア州の小学校教師、レイフ・エスキスです。彼が教育実習を行った学校の児童の大半がスペイン語しかできなかったため、英語の古典を読ませました。『ロミオとジュリエット』の映画鑑賞に行こうとしました。このことが指導担当者に気に入られず注意を受けました。実習生には指導担当者の顔色ばかり気にして、教育実習を終わらせた者もいます。レイフはそのような態度は子どもに対して良くないときっぱりと言っています。この本を通して、アメリカ・カリフォルニア州の教育事情や教師の在り方がよく見えてきます。

教師になってしばらく経って、レイフは、自らあえて貧困層の児童が多く在籍する学校に転勤しました。子どもに英語

の読み書きを徹底的に教えるとともに、毎年シェークスピアの舞台を観に行かせました。子どもたちは喜び、保護者たちとも親しくなったのです。

今、教師の力量が問われ、教師と保護者との問題がニュースで報じられている中、レイフの行なった指導の在り方を見習う必要があると思います。

この本は、教師になってどのように子どもと接するかなど、レイフの実体験をもとに書かれています。これから教師を目指す上で必要不可欠な参考書だと思いました。私は「教師としていちばん大切なこと」は子どものことを一番に考えることだと思います。

皆さんはどう思いますか？